

環境文明 21 での活動を通して

吉見 稔里 (よしみ みのり / 2019 年インターン生)

昨年の 6 月から今年の 1 月までの 8 か月間、環境文明 21 でインターンをさせて頂きました。インターンを通して感じたこと等を書かせていただきたいと思います。

環境文明 21 での活動では社会と環境問題の関わりについて考える機会が多くありました。例えば倫理部会です。何度か倫理部会に出席させていただき、会員の皆様と共にこれからの社会の在り方について議論しました。経済や教育といった視点も交えながら、環境にこれ以上負荷をかけない社会にするためにはどうしたらよいか、ということを考えるのは非常に楽しく、私に広い視野を与えてくれました。環境は私達の社会の基盤であり、ほとんどの社会問題と関わっています。それにもかかわらず、私達は資源が無限にあるような感覚に陥り、“発展”のために資源を湯水のように使い、環境を破壊しています。私達自身の未来を守るためにも経済など含めて社会、そして人の価値観を変えていかなければいけません。それをどう変えていくべきなのか、ということを経験 21 での活動を通して考えました。

次に、私が目指したい社会について書きたいと思います。それは市民が作る社会です。日本は民主主義制ではありますが、正しい知識の基に選挙に行く人はごく少数であるように思います。日本では市民教育をほとんど行わないため、社会問題に対してあまり関心を持たず、政府が何とかするだろう、という考えがあるように感じます。市民教育を取り入れることで、そのような人々の意識が少しずつ変わっていくと思います。多くの方が自分たちの社会に対して関心を持つことで、社会をより良くしてい

くためにはどうすべきかを考え、選挙や消費活動等、個々人の行動においても意思を示していくことで、大きく社会が変化していくのではないのでしょうか。そしてこれは環境問題についても良い方向へと動かしてくれると考えています。

活動を通して印象に残っているのが、幅広い年代の方との交流です。自分の知らない時代の日本の歩みを知っていらっしゃる方とこれからの日本社会についてお話したことはとても良い経験となりました。私達の世代はつい海外の事例に目を向けがちですが、これまでの日本の歩みと照らし合わせて環境問題の解決の糸口を探ることをもっとすべきではないか、と思うようになりました。また、今の若い世代は社会に対してあまり関心がないように思う、との言葉を頂いたこともあります。以前は、極端な例でいえば学生運動もあったように若者に社会を変えていこう、という意識があったのでしょうか。現代の若者も自分たちが社会を変えられるかもしれない、という想いを持ち、行動していくことが将来の私達にとって重要な一歩です。私自身、4 月から社会人になりますが、目の前の利益を追うだけではなく、社会にとって良いことは何か、という視点を常に持ち、行動に移したいと思います。

最後に、環境文明 21 でインターンをする事ができたのは私にとって大きな財産です。環境問題について学べたことはもちろん、職員の方々や会員の皆様との出会い、そしてインターンを通して得た社会に対する考え方などは、これからの私の人生に大きく影響すると確信しています。本当に有難うございました。